

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4676700083
法人名	社会福祉法人 松山やっちく会
事業所名	グループホーム 松山あじさい
訪問調査日	平成 21 年 10 月 8 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 3 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成21年10月14日

【評価実施概要】

事業所番号	4676700083
法人名	社会福祉法人 松山やっちく会
事業所名	グループホーム 松山あじさい
所在地	鹿児島県志布志市松山町泰野字松ヶ迫1139-1 (電話) 099-487-8200

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年10月8日
評価確定日	平成21年12月3日

【情報提供票より】(平成21年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 30 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
常勤	15 人
非常勤	2 人
常勤換算	15.8 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	500円 (事務費)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	62 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山下クリニック ・ 中原歯科医院
---------	------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、遠くに大隅の山並みを望み眼下には刈り取りを待つばかりの金色の稲穂が揺れる田畑が広がる自然に囲まれた小高い丘にあり、同じ敷地に建つ特別養護老人ホームと一つの共同体をなしている。管理者は自立支援が大切と考え、過剰な干渉をせず出来る限り本人の意思を尊重した支援に取り組んでいる。家に帰りたと言われる利用者に対し、安全面を確保した上で一時帰宅や外泊の支援を行うなどの柔軟な支援が行われている他、消防署の指導の下、地域住民や市職員も参加して日没後に行う消防訓練と事業所独自の訓練を含め年5回行われていることが特徴的である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については、職員に報告され報告書が回覧されているが、改善課題は上げられていないため特に話し合いは行なわれていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者の交代もあり、取り組む時期が遅れたために今回の自己評価は管理者一人で行なっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は2ヶ月に1回、利用者、家族代表、地域代表、民生委員、市職員が参加し、事業所の状況、活動内容の報告の後、参加者の意見交換が行なわれている。帰宅願望の方の対処方法のアドバイスを頂いたり、地域行事の情報を得るなどサービスの向上に活かせるように取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議や年3回事業所の行事に合わせ開催している家族会、面会時や意見箱などで家族が意見、要望を表せる機会を設けているが、特に苦情などはなく、家族会で事業所の周辺の草払いをしてくれるなど協力的である。面会時に個人の要望があった時には、申し送りノートに記載し職員が共有している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>同敷地内の老人ホームが主催する夏祭りや運動会に参加している他、地域の方が通って来るデイサービスに遊びに行ったり、やっちく祭りに参加するなど地域住民との交流も行なっている。また、地域の小学生のボランティア、中学生の職場体験の受け入れなども行なっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆったりと楽しく自由に暮らせる喜びと自信を、馴染みの環境の中で安心して生活できるよう支援します。」という理念を作っているが、現状をふまえて職員と話し合い理念を変えていきたいと管理者は考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はパンフレットやホーム便りにも掲載し、朝礼では自立支援に向けて利用者のできることはしてもらうように指導し、無理強いをせずに利用者によってもらえる様工夫しながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同敷地内の老人ホームが主催する夏祭りや運動会に参加する他、地域の祭りにも参加したり、地域の老人会が行なっているグランドゴルフにも参加してみたりと交流に努めている。また、小学生のボランティアや中学校の職場体験の受け入れなども行なっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価結果については、職員に報告され報告書が回覧されている。今回の自己評価については、管理者の交代で初めての経験のため取り組み時期が遅れ、管理者が一人で行なっている。	○	職員は自己評価を行なう意義を理解し、年1回の振り返りの機会と捉え、積極的に関わりを持てるように研修の年間計画に自己評価の取り組みを入れるなどの工夫をされることでサービスの質の向上に期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、利用者、家族代表、地域代表、民生委員、包括職員などが参加し定期的に開催されている。事業所の状況報告後に意見交換を行い、帰宅願望のある方の対処方法のアドバイスを受たり、地域行事の情報を得るなどサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者とは日頃から情報交換を行なうと共に、法人施設が主催する行事に参加してもらい現状を報告しながらサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行のホーム便りには、お誕生日や行事、日頃の様子などを写真入りで紹介し、職員の異動も報告している。便りと金銭出納帳のコピー、領収書も合わせて請求書と一緒に送付している。利用者一人ひとりについて管理者がコメントを書いている。健康状態はその都度家族に電話で連絡し、面会時などに詳しく報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や年3回の家族会、面会時や意見箱などで家族が意見を表せる機会を設けているが、特に苦情等はなく、家族会が事業所周辺の草払いを行なってくれるなど協力的である。面会時に個人の要望があった場合には、申し送りノートに記載し職員が共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職の場合には、引き継ぐ期間を十分に取るように努めている。ユニット間での異動はないが、両棟を知るためにも日勤帯の職員を交代させるなどの試みを行い、利用者との馴染みの関係作りをしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の年間研修計画に沿って勉強会が毎月ある他、法人の委員会(行事広報・事故防止・感染症対策・美化・サービス向上)も月1回行われ、伝達講習もできている。専門病院が主催する認知症の勉強会にも職員が参加できるように配慮している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区グループホーム連絡協議会に加入していなかったが、今後加入する予定となっている。外部認知症研修会や専門病院主催の勉強会、他のホームと交流する機会をもっている。	○	今後、大隅地区グループホーム連絡協議会に加入し、研修会や職員の交流、相互訪問などを通して、事業所の更なるサービスの質の向上に努めていかれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	紹介による問い合わせがあったら、事前面談し確認をしてから、本人や家族に見学に来て雰囲気を感じてもらおうようにしている。入居後は家族に協力をお願いし、訪問回数を増やしてもらったり、外出に連れ出してもらおうなどしながら徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は自立支援であることを念頭におき、利用者の菜園作りや郷土料理、梅の漬け方、山菜の取り方、昔の地域の様子などの話を聞いたり、得意分野で力を発揮してもらおう場面作りを多く行ないながら、学び合い支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にアセスメントを行い、入居後は日常のかかわりでの言葉や行動、表情などから思いを把握した場合には個人台帳に記録したり、直接、計画作成担当者に伝えるなどしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議に家族が参加できる時もあるが、面会時などに家族の意向を確認し、会議には日勤帯の職員が参加し意見を出しあい介護計画書を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画作成担当者が主に3ヶ月に1回のモニタリングを行い、6ヶ月ごとにカンファレンスをして見直している。変化があった場合には、随時見直しを行なっている。	○	職員全体で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画の見直しが行なわれる事を希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院からは緊急時に往診をしてもらっている。病院受診に家族が付き添えない場合には、職員が同行する他、特別サービスとして、外泊支援や墓参り、お寺参りなど利用者の要望に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。定期受診には職員が同行し、適切な医療が受けられるように情報を提供し、薬や状態に変化があった場合には、家族に電話で連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に関わる指針を作成し、入居時に家族に説明し同意を得ている。終末期対応に於ける夜間帯での家族の協力を謳っており、日中は同施設の看護師の協力がもらえるが、医師を交えて家族、関係者と話し合い方針を決定するようになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人権擁護についての勉強会は行なっている。管理者はミーティングで、言葉遣い、方言の使い方や使い分け、トイレでの見守りの姿勢や態度などについて指導し、利用者のプライバシーを損ねない対応を図っている。記録物の取り扱いや保管についても適切に行なわれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間、食事時間など、その方のペースを大切にしている。美容院に行きたい、お寺参りをしたい、家の畑をしたいなどの希望があった場合には、職員の支援体制をすぐに整え希望に沿えるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながら、菜園で取れた新鮮な野菜を使い献立を立てている。若い職員が厨房にたつときには、味付けのアドバイスをしたり、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、配膳、下膳など利用者の力量に合わせ手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的には週3回、午前10時から午後16時までの間の好きな時間に入ってもらおうようにしている。一人づつゆっくり入られる方が多く、拒否する方には無理じいせず翌日にしたり、声かけのタイミングをずらすなど気持ちよく入ってもらおうように心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	少しでも自立支援に繋げていこうと、洗濯物たたみや菜園の草取りなど利用者のできることをしてもらい、梅干し作り、団子作りでは力を発揮してもらっている。事業所で行う夏祭りやバーベキュー、ミニコンサートやドライブなどで楽しみ、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	園庭は芝生になっており、コスモスの花が揺れ、眼下に広がる眺めから四季の移ろいを感じることができる。利用者はリビングからそのまま庭に出ることができるので冬は日光浴、夏は渡り廊下の日陰で一休み。買い物やドライブなどいつでも出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はセンサーで対応しているため日中鍵をかけてはいない。外出傾向の方の希望を出来る限り聞いて、自宅まで連れて行ったり、一緒に散歩に行ったりしているが、事業所の裏手が山林のため、職員が手薄の時間帯に鍵をかけることもある。地域の方にも情報を提供し、協力をお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下に、同法人施設が行なう昼間、夜間帯での防災訓練に参加している。また、事業所が単独で行う他に2回の自主訓練をあわせて、避難誘導、点呼、通報の訓練を年5回行っている。法人施設で行なう訓練には、行政、地域も参加している。非常食の備蓄も行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量についてはチェックし記録されている。毎月体重測定を行い変化に対応している。食事形態についても利用者の状態に合わせて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	あじさいⅠとⅡの作りは天井の高さが違い、Ⅰには天井を利用した物置きがある。ユニットごとの和室には床の間と仏壇がおりてあり、仏壇の花は庭に咲いている季節のコスモスとけいとうの花が飾られている。壁には、利用者のぬりえや手作りの目めぐりが掛けられている。テレビの前と廊下にソファが置かれそれぞれが居心地よく過ごせるように配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・ダンス・クローゼットは備え付けとなっている。居室には、テレビ、置時計、写真、位牌など大切にしているものや布団や枕などの使い慣れたものを持ち込み居心地よく過ごせるように工夫している。		